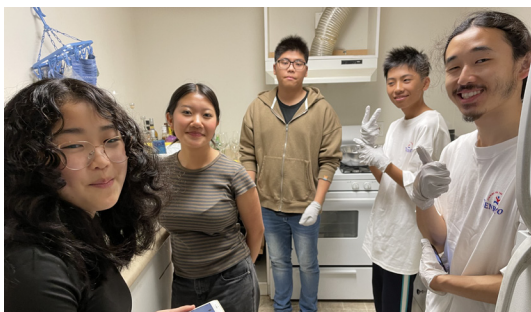


# 一光



## TSA 春季練成会

去る、5月25～27日にかけて、「信仰の喜び」をテーマに TSA 春季練成会が開催され、12名が参加しました。

天理教アメリカ伝道庁

No.919



tenrikyo.com

JUNE

2024



# つらつらせんがく 熟々浅学



## — いちご —

今月 30 日午前 10 時から、天理教アメリカ伝道庁創立九十周年記念祭を、真柱様のご名代として中山大亮様、真柱夫人の中山はるえ様のご臨席を賜り、執り行います。どうぞ遅れないようにご参集ください。

また、前日の 29 日には、アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立七十周年記念合同総会を、天理教婦人会会長様と天理教青年会会長様のご臨席の下、開催します。一人でも多くの婦人会員、青年会員にご参集していただきたいと存じます。

どうぞ宜しくお願い致します。

さて、アメリカ伝道庁はロサンゼルス市に在りますが、1900 年頃、伝道庁近くのドジャースタジアム北側のトロピコ (Tropico) と呼ばれる地域で、日本人が「いちご (ストロベリー)」の栽培を始めたようです。この地域でのストロベリーの耕作が一時期繁栄したそうですが、灌漑用水の不足や土壌条件の悪化などがあり、その後ストロベリー栽培はサンフェルナンドバレー (San Fernando Valley)、サンガブリエル・バレー (San Gabriel Valley)、ガーデナ (Gardena) の各地域で行われるようになったようです。

日本人作家の石川好 (いしかわ よしみ) 氏が、1965 年の高校卒業後にロサンゼルス市近郊のストロベリーファームで働いていた実兄を頼って来米し、そこで働きながら過ごした 4 年間の体験を基に小説を書いています。そのタイトルが「ストロベリーロード」となっています。実兄が働いていたストロベリーファームはサンディマス (San Dimas) にあった (現存?) ようです。

余談ですが、石川氏は滞米中、休日には伝道庁の「ひのもと文庫」を利用してたと、天理図書館での講

演で述べていたと記憶しています (青年会本部発行の平成 5 年 6 月号「大望」誌にも記載されているそうです)。

現在、前述の地域でストロベリー栽培がなされているのか存知ませんが、伝道庁の南方のアーバン市に日系人が経営している「ファーム (Farm)」があり、5 月になると「いちご狩り」が行われています。

ロサンゼルスでストロベリーを食べた経験のある方はご存知でしょうが、時折、身体が震えるほど酸っぱいストロベリーがあります。もちろん、甘いストロベリーもありますが、日本の「いちご」の味を知っている者にとって、こちらで食べるストロベリーは酸っぱく感じる人が多いのではないのでしょうか。

「いちご」は、現在ではショートケーキに使う果物として欠かせません。そのため (だけではないでしょうが) 季節に関係なく、冬でも収穫できるようにビニールハウス内で栽培している農園もあります。

天理市が含まれる奈良県では、「いちご」は特産品の一つになっているようですが、スーパーなどでは奈良県内で品種改良された「珠姫 (たまひめ)」、「古都華 (ことか)」、「奈乃華 (なのか)」や、コマーシャルソングと共に「アスカルビー (Asuka Ruby)」が店頭で売られていることがあります。それぞれに大きさや色合い、味に特徴があります。

「いちご」は「実」ですから、花が咲いて、受粉して、実がなるという過程を通ります。つまり、実がなるには「受粉」が必要になります。

受粉には「人工授粉」と「自然授粉」があります。「人工授粉」では、耳かきが付いている「梵天」や女性用フェイスブラシなどの毛先の柔らかい部分を使って、手作業で花の雄しべの花粉を雌しべに付けるのですが、この時、雌しべに満遍なく受粉を行う必要

があります。「いちご」の一つの花には雌しべが100本以上あるようで、その一つひとつが受粉しませんが綺麗な形の「いちご」にならず、変形した「いちご」ができるそうです。

「自然受粉」では蜜蜂を使うことが主流だと思えますが、中にはハエを使う方法もあるようです。もちろん、風に吹かれて花粉が飛んで受粉されることもあります。それはビニールハウス内での栽培では難しいでしょう。

手作業で行う「人工授粉」の手間を考えますと、蜜蜂などで行われる「自然受粉」は非常に効率の良い方法なのかもしれません。ビニールハウス内での栽培では、1,000㎡当たり6,000匹から8,000匹の蜜蜂が必要らしいですが、開花時期に合わせて蜜蜂の巣箱を持ち込んで「自然受粉」を行うようです。

最近知ったのですが、ニューヨークで共同創業者兼CEOである日本人が経営するベンチャー企業が栽培している「いちご」が好評とのこと。とても美味で、加工せずそのままの「いちご」をデザートとして提供するレストランがあるそうです。

この会社では、「植物工場」で「いちご」を栽培しています。「植物工場」とは、屋内で内部環境をコントロールした閉鎖的な空間で野菜や果物を計画的に生産するシステムです。つまり、建物内で野菜や果物を栽培しているということです。こうすればデータ管理ができ、温度や肥料などをコンピュータで制御でき、季節に関係なく出荷時期を調整することができます。機械を使うことにより人員削除にも繋がります。また、耕作地が不必要なため、自然環境の変化に左右されることなく農作物を栽培できますので、将来的には安全な食物の供給源になることが期待されています。

ただ、初期設備投資が高額で、また、栽培中の電気代や維持管理費が掛かりますので、採算を取るのが難しいことがあるようです。

先述の会社での「いちご」栽培では「受粉」が必要になります。機械を使っての「人工授粉」をしているのかと思いきや、「自然受粉」を行っているとのこと。つまり、蜜蜂を使って受粉を行っているのです。そのために建物内に蜜蜂を放つ

ですが、蜜蜂は繊細な昆虫のようで、人工的な光の下では巣から出て来ないらしいのです。そこでこの会社では、先ず、蜜蜂が巣から飛び出せる環境を整えるところから始めたとのこと。そしてその問題をクリアしたところ、その次には生産性の問題が浮かび上がりました。先程も書きましたが、受粉が満遍なくできないと綺麗な「いちご」ができませし、そうでなければ売り物になりません。また、受粉の成功率によって収穫量が変わってきますので、それを解決する必要がありました。それもクリアしたこの会社での受粉成功率は、通常のビニールハウスでの受粉成功率である6～7割を上回り、95%を達成しているとのこと。その他、集めたデータを基に液肥や水やりをコントロールし、蜜蜂を飛ばすか飛ばさないかまで決めているそうです。その上、40日後の出荷量も分かり、計画的に生産、販売ができるようしているそうです。

このように植物工場内で「自然受粉」を行っていることを鑑みた時、自然の力の大切さを実感します。また、この世に蜜蜂が存在するので私たちの食物の収穫が出来るという自然の偉大さを改めて感じました。少し飛躍した表現になりますが、昆虫を媒介しての“受粉作業”の大切さや受粉ができないと果物ができないところに、「この世は神の身体」であることを再認識したのです。

それと同時に、おふでさきに、  
いちれつに神の心がいつむなら  
ものゝりうけかみないつむなり 1-12  
りうけいのいつむ心ハきのとくや  
いづまんよふとはやくいさめよ 1-13  
りうけいがいさみでるよとをもうなら  
かぐらつとめやてをとりをせよ 1-14

とあるように、さまざまな食物を収穫する上で、おつとめを勤める大切さも再認識した次第です。

深谷 洋

## 立教187年5月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、元初りのお約束により、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろによるづ委細の元の理を明かされて、たすけ一条の道をお啓きくださいました。爾来、神直々のための御教えは年を逐て伸び栄え、世界各地にたすけの御用に勤しむ者をお与えいただき、今日の姿をお見せいただきます御守護の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の五月月次祭を執り行う由縁の日でございますので、只今より、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、勇み心と共に、座りづとめ、てをどりをつとめてさせていただきます。御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御厚恩に感謝して、尚も変わらぬ御守護にお継りしたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

先月より今月にかけて、管内各地にてひのきしんデーを開催しておりますが、にをいがけの一助にもなりますようお願い申し上げます。

また、今月二十五日より二十七日まで、伝道庁に於いて学生会春季練成会を開催予定ですが、将来を担う学生達の心の成人の糧となりますようお願い申し上げます。

更にはまた、来月三十日に迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭を、また、その前日のアメリカ婦人会、アメリカ青年会創立七十周年記念合同総会を準備万端整えて無事に迎え、滞りなくつとめ終えさせていただきますようお願い申し上げます。

私共は、世上にお見せくださる争い、災害を鑑みて、世界に御教えを広める大切さを心に留め置いて、たすけの御用に一層努める大切さを認識し、にをいがけ、おたすけに邁進させていただく所存でございます。また、来月迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭に向けて、管内の心を一手一つにして成人の道を歩み、その後も、教祖百四十年祭へと邁進いたしたいと存じます。何卒、親神様には、私共のこの真実の心をお受け取りくださいます、一日でも早く、世界の人々が睦み合って暮らせる世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

## 5 月月次祭神殿講話

ヘリティッジ教会長  
弓削 ロバート

本日、この美しい五月の第3日曜日、深谷庁長様ご夫妻を芯に、天理教の教祖、おやさまを通して親神様がお教え下さいました素晴らしい「みかぐらうた」の音楽と、てをどりを、勇んで陽気に勤めさせて頂きました。

アメリカ伝道庁設立90周年を迎える1ヶ月前という、このおめでたい時期に、私たちの信仰についての私の考えを分かち合う機会を与えていただき、大変ありがたく感じています。

深谷庁長先生、本日は私にこのような喜ばしい機会を作って頂きありがとうございます。今月の神殿講話を担当することになりましたので、ご清聴のほど宜しくお願いいたします。

今月は、世界の多くの国々が母親、そして母性を祝う時でありますので、ここにお集まりのお母様方、また世界中のお母様方に敬意を表し、謝意を表したいと思えます。また、私たち天理教の教祖は、人類最初の母親であるいざなみのみことの魂をお持ちの方であると、「元の理」に説かれています。

その意味で、私たちはこの5月、教祖や今世の母親に思いを寄せ、感謝すべきです。本当は、毎日教祖をお祝いし、感謝すべきなのですが.....それはまた別の日にでもさせて頂くという事で.....。私個人として、今日この神殿にいる私の家族の三人の母を祝いたいと思えます：ミセス弓削郁子、ミセス野町照代、そして私たちの子供たちの母親である弓削トレイシーです。三人の子供たちを愛情に満ちた環境で育ててくださった三人の母親に感謝します。

そしてここで、私の母についてももう一つ述べたいと思えます。ご存知の方も多くいらっしゃるかと思いますが、母は伝道庁のスタッフとして50年以上にわたって天理教のコミュニティのために尽くしてきました。実際、ここにお集まりの皆様の中にも、母が30年以上、伊藤先生と共にリーダーを務めていた「こどもおぢばがえり」に参加されたことのある方が多いのではないのでしょうか。昨



年12月をもって、母は伝道庁のスタッフから正式に引退しました。この50年間、献身的で思いやりのある仕事をしてくれた母を心から称えたいと思えます。

まだ完全には終わっていませんが、昨年11月から、「ミセス弓削のデスク」として多くの人に知られている机の周りのファイルと本棚の掃除を始めました。30年以上前の「こどもおぢばがえり」の38母屋の部屋割リストのようなフォルダやファイルがたくさん出てきました。

少年会や婦人会のノートや会議のメモなどもありました。沢山の写真を家に持ち帰り、新たにきれいなデータとして保存し始めました。長年にわたってたくさんものを保管していたんだな、と実感しました。

机の中にあった沢山の物の中で、特に私の目を引いたものがありました。それは1977年の映画『オー・ゴッド!』の古いVHSでした。なぜその様な物がそこにあったのかは不明で、母も覚えていません。もしかしたら、何年も前に誰かが伝道庁に忘れていった落し物かもしれません。VHSが何であるかをご存知ない方のために説明しますと、一昔前、このVHSというテープでみんな映画を見ていました。主演はジョージ・バーンズという年配の白髪の俳優兼コメディアンで、神様の役を演じている映画です。

この俳優さんはいつも葉巻をくわえていて、100歳まで生きたことで知られています。また、この映画にはジョン・デンバーという有名な歌手

が出演しており、地元のスーパーマーケットの副店長で、神様に選ばれてコミュニケーションをとるジェリー役を演じています。彼のカラオケ人気曲『カントリー・ロード』を覚えている人もいらっしゃると思います。

私は、この映画を家族と一緒に見たいな、と心が躍りました。というのも、実は我が家にはまだVHSプレーヤーがあり、私も若い頃にこの映画を随分と楽しんだ記憶があったからです。家族と一緒に見ていて、ふと映画の中のシーンが教祖のことを思い起こさせることに気づきました。例えば、ジェリーは無宗教だと主張する素朴な男ですが、神様に選ばれて神の使者となります。ジェリーは問いかけます、「なぜ僕なんだ?」。神様はこう答えました。「君じゃあだめかい。」今では私たちは、教祖は親神様の社であり、1838年10月26日の啓示の時から神様の心を持っていたと教えられていることは知っていますが、自分の大切な人、あるいは自分の母親や父親が突然、神様と直接話していると言い出した状況に自分を置いてみましょう。あなたならどうしますか?そして皆様はどう思われますか?

この映画の場合、テリー・ガー演じるジェリーの妻ポビーは呆然としてしまいます。彼女は明らかにジェリーをとても愛していますが、夫は「頭がどういなくなってしまった」のではないかと心配します。映画の中での神様のメッセージは簡単です。「私が存在すること、すべてはうまくいく可能性があること、しかしうまくいくかどうかは私たち次第であること、を人々に伝えなさい」と。

神様は、人々が神を信じなくなったこと、そして私たちが互いに争い、神様が創造して下さった環境をわれわれ人間が破壊し世界を破滅させていることに苛立っているのです。

あるときジェリーは、自分が神様を見たり聞いたりしているのは幻覚だと確信し、神が実在することを証明する奇跡を見せてほしいと神様に頼みました。神様は、自然の法則の範囲内にあるものでないと物事がめちゃくちゃになってしまう、と答えます。そして神様は、雲ひとつない空に突然雨を降らせました。この奇跡を目の当たりにした彼は、神様が自分に語りかけているに違いないと確信し、地元新聞の宗教欄の編集長に熱心に会いに行き、神様のシンプルなメッセージをローカルの新聞記事にするよう主張します。

そして、翌日の新聞には、社会の悲しい現状、

最近出会った地元のスーパーマーケットの副店長が神様と話しているような想像をしているという短い文章が掲載されました。ほとんどの人は、彼が正気を失ってしまったと考えますが、翌日、テレビのニュースレポーターが、ちょっとした特ダネとして放送の最後にこの新聞記事に触れました。これがきっかけとなり、ジェリーは全国放送のトーク番組に出演することになり、神様のメッセージがより多くの視聴者に伝えられるようになります。このことが更に大きな出来事に発展していきますが、ここではそのことについては話しません。皆さんの楽しみを台無しにしたくないからです。皆様ご自身で映画を見るしかない、と思います。もしも、このVHSに興味があればお知らせください。

この光景は、教祖の物語に登場する多くの奇跡の一つを思い起こさせるシーンの一つでもありました。私たちの聖典の一つである『天理教教祖伝』の一節を読みたいと思います。(259ページ)

明治16年の大干ばつの時、近くの三島村の村人が教祖に雨乞いのおつとめをお願いしました。教祖はこうおっしゃいました。「雨降るも神、降らぬも神、皆、神の自由である。心次第、雨を授けるで。さあ掛かれ／＼。」

そこで、村總代の石西計治氏と相談して、先ず、村の氏神の境内に集まる事とし、一同準備をととのえ、八月十五日の午後四時頃、お屋敷を立ち出で、氏神の境内へと向かった。この日は、朝から晴天で、空には一點の雲もなかった。

眞之亮と飯降伊蔵の二人はお屋敷に留まり、かんろだいの所で一心にお願いした。当日、雨乞つとめに参加の人々は、辻忠作、仲田儀三郎、同かじ、梶井伊三郎、高井猶吉、山本利三郎、岡田与之助、澤田権治郎、博多藤平、村田かじ、中山重吉、西浦彌平、飯降よし系、辻とめぎく、音吉等である。

中略

このころ、東の空にポツンと一點の黒雲が現れた。つゞいて乾の角で、つとめに取り掛かったときに、墨をすったような黒雲が東山の上から忽ちにして空一面に廣がり、篠つくような大雨が雷鳴さえもまじえて降り出し、激しい夕立となって来た。つとめに出た人々や村人達の嬉しさは、譬えるにもものもない。

一部割愛

つとめを了ってから、一同が氏神の境内で休んで居ると、村人達も大そう喜び、かんろだいの場所でお禮さして貰いたい、と言ってきた。そこで、

かんろだいのところへ歸って来て、皆揃うてお禮の参拝をして居ると、丹波市分署から数名の巡査が駆けつけて来た。そして、何をして居るか。と言うから、村の頼みで雨乞致しました。と答えた。

このエピソードにはまだ続きがあるのですが、結局、警察は雨乞いづとめによって、給水を妨害したとして、全員の身柄を拘束したのです。もう一度繰り返します、警察は雨乞いづとめによって、給水を妨害したとして、全員の身柄を拘束したのです。本当に信じられない事ですね！近隣の村々に降るはずの雨を、三島村だけに降らせたというのです。さらに、道路脇で雨乞いづとめを行い、交通を妨害した罪にも問われました。教祖以外は罰金を支払われ、その日のうちに釈放されましたが、教祖は一晩だけ投獄され、翌日釈放されました。その時教祖は85歳でした。みなさん、このことを胸に染み込ませてください！

信者達を罪に問うたことによって、この雨乞いづとめが、実際に雨の恵みをもたらしたということが、警察の正式な記録に残されたのです。教祖のお言葉が親神様のお言葉であることを、当時の信者たちに証明したのです。

さて、先ほどの映画の例と同じように、この奇跡は、教祖のお言葉が親神様のお言葉であることを、当時の信者たちにさらに明らかにしたのです。実際、雨乞いづとめに参加した信者の多くは教祖の高弟で、彼らの話は様々な本に記録されています。主に日本語の本ですが、私たち英語の読者のために、"Disciples of Oyasama, Foundress of Tenrikyo" という素晴らしい本があります。このような高弟たちの多くは、講を立ち上げ、後ほどできたいくつかの最初の大教会の原型となっています。

この本を奥の棚で探してください。紫色の小ぶりの本で、ちなみに訳者のクレジットがある数少ない本のひとつで、偶然にも私の父、弓削満です。また、『天理教教祖伝』、改訳作業中の『天理教教祖伝逸話編篇』、劇画『教祖物語』をぜひ読み、これらの本に、教祖の教えの歴史に刻まれた沢山の奇跡に、よい刺激を与えて貰ってください。

さて、ここで私が現在参加している活動に話を移したいと思います。日系インターフェイス・フェローシップ (NIF) という団体をご存知の方がどれくらいいらっしゃるかわかりませんが、ロサンゼルス日系コミュニティの宗教指導者の集まりで、1995年に第二次世界大戦終結50周年を記念



して初めて集まりははじめました。様々な宗教団体の代表が集まり、ウェストサイド教会長の伊藤国繁先生がその時天理教の代表となり参加し始めました。それ以来、このグループは様々な宗教施設で定期的な会合を持ち、施設を見学したり、様々なトピックについて話し合ったり、ホストをしている宗教団体の教えについて学んできました。ここ伝道庁でも何度か主催を務めさせていただきました。私は、幸運にも2014年から岡崎マロン、宏子会長、森下ケイ会長などと、このミーティングに参加しています。この間、NIFは広島被曝記念行事やリトル東京の全米日系人博物館の開館式など、さまざまな記念行事に参加してきました。

しかし、このグループが最も一貫して参加している活動は、ここから約三時間半の距離にあり、マンモス・マウンテンに行く途中のローン・パインという市にあるマンザナー収容所で年に一度開催される巡礼であります。毎年四月の第4土曜日に開催され、2020年の巡礼はコロナで中止になり、2021年の巡礼はインターネットを通じてバーチャルに開催されましたが、私は過去四回の巡礼に参加しています。今年は、55回目の巡礼で、私はロバート・カネガワと一緒にいき、大学の日系学生連盟で参加していた息子のトレバーと合流しました。いつもプログラムの最後に行われる宗教間の祈りに参加するつもりはありませんでしたが、マンザナーに行く前にここ伝道庁の朝勤めで着ていた教服がたまたま車にあったので、祈りの時間のために他宗教の方々が集まっている際、私は日系人フェローシップのチーフの八木師に、この教服を着て、皆様と団結して一緒にお祈りに参加し

ても良いかお尋ねしました。

その場には仏教の僧侶が四人いましたが、誰もマンザナーでの祈りをしたことがなかったので、プログラムを始める人がいないことに気づいたとき、私は天理教式の参拝から始めることを申し出ました。300人ほどの観衆に、まず親神様に拍手を打ち、それから、次に記念碑に向かって、四拍手で祈りを始め、四回拍手でお祈りを終えることを説明しました。多くの人が一緒に拍手を打ってくださっているのが聞こえたのは、とても嬉しい事でした。プログラムが終わった後、何人かの人が私のところに来て、天理教が代表されたことを喜んでいてと言ってくれたのには驚きました。様々な形で天理教とつながっている人がいました。ある人は、サクラメント教会の月次祭に出席して育ち、ある人は、南カリフォルニア教会の宮野正雄先生と親戚であったり、またある人は、自分の曾祖父がサンフランシスコ教会の初代会長である神沢常太郎先生だったとのことでした。

その方々は現在は天理教の月次祭に参加されていませんが、お勤めに親しみを感じてくださり、私に会えてよかったと言ってくださいました。この日私がそこに行かせて頂いた大きな目的が急にわかりました。今日起こったことは偶然ではなかったのです。伝道庁の90周年記念行事にお誘いする機会にも恵まれましたので参加してくれると思います。

ここでの行事で太鼓とギターを披露して下さった小塩健さんともつながりができました。この中の皆様もおそらく覚えていらっしゃる方もおられるかも知れませんが、彼が1998年に初めて渡米した際、ミシガン・アベニューの通りに住みながら、ロサンゼルスのような会場でギターやフォークを演奏していました。実は彼の祖母は天理教で、2004年にロスから離れアリゾナ州フェニックスでギターを弾き、和太鼓を教えるために引っ越すまで、定期的に参拝にいられていました。それから、彼と話した後、私は90周年記念エンターテイメント委員会の許可を得て、なんと彼は記念バンケットで自分の曲をいくつか演奏してくれることになりました。

そして最後にもうひとつ。今年は伝道庁創立90周年であると同時に、1984年に天理教海外部が始めた若者の夏の大プログラム「おやさとセミナー」が40周年を迎える年でもあります。おやさとセミナーは、1984年に天理教海外部が開始

した若者のためのサマープログラムであり、今の神殿にいる私たちの多くは、おやさと、おぢばにてお道の教えや教えに沿った生き方を学ぶ機会がなかったら、ここにはいなかったと言っても過言ではないでしょう。飯降政彦先生、海外部の多くのスタッフの方々、このような画期的なプログラムを私たちにお与え下さり、ありがとうございます。

多くの人がそれぞれ色々な理由で天理教に関わるようになったことでしょうか、私の非公式の数字ですが、アメリカ、カナダ、ハワイにおいて20名以上のおやさとセミナー卒業生が、教会長や布教所長の役割をつとめています。実際、二人のおやさとセミナーの卒業生が、先月4月に教会長になりました。シカゴ教会の木村陽介氏とノース・ホノルル教会の本田グレン・ジュニア氏です。グレン会長は、1984-1985年の同窓生です。彼の教会はホノルルにあります。ここロスアンゼルスにあるノース・アメリカ教会の所属教会で、ノース・アメリカ教会も昨年7月にアメリカ伝道庁の所属教会になりました。昨年の7月までは、私のヘリテージ教会は、伝道庁唯一の直轄教会でしたが、今では、3つの兄弟教会があり、他の親教会の部内教会のような密接な関係をもてるので、うれしく思います。そしてグレン会長は、私の知ってる限りでは、初めてのLGBTQ教会長です。ちなみに、このことを話すことにつきましては、グレン会長より了解を得ております。

私は、この管内の将来を思いますと心がわくわくします。親神様がご希望下さることを達成するために多くのよい人材を集めて下さいました。

親神様、教祖のご守護を心からお願い申し上げます。本日の講話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。



上記QRコードから伝道庁ウェブサイトにて神殿講話を動画でご覧いただけます。







## 伝道庁連絡



### 5 月月次祭

祭主 庁長  
 扈者 田中知義 福井陽一  
 賛者 伊藤伊智郎 上杉浩司  
 指図方 長谷川邦昭  
 神殿講話 弓削ロバート（英）

### 教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願

おはこび：2024年4月18日

創立90周年記念祭：2024年12月1日

シカゴ教会：任命願、臨時祭典願

おはこび：2024年4月18日

教会長：木村陽介

奉告祭：2024年7月28日

台榭教会：移転願、臨時祭典願

おはこび：2024年4月26日

教会長：ソー・リン・ミツノ

鎮座祭：2024年7月27日

奉告祭：2024年7月28日

オレンヂ教会：任命願、臨時祭典願

おはこび：2024年7月26日予定

教会長：伊藤錦平

奉告祭：2024年9月21日

### 三代真柱様十年祭

三代真柱 中山善衛様の十年祭が、2024年6月24日に教会本部にて執り行われます。

### 第85回アメリカ修養会

第85回アメリカ修養会が、2024年7月21日（日）から8月17日（土）まで開催予定です。開講約1ヶ月前（6月16日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

### 天理教語学院（TLI）日本語科入学願書

#### 及び志願者のための一れつ会扶育願書

2025～2026年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」の出願期間が下記のようになっていますので、入学を希望される方は8月末までに伝道庁までご連絡下さい。

尚、今年度より、願書は天理教語学院のホームページ（<https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/>）からダウンロードし、入手してください。同じページに入学案内、注意事項等もごございますので、入学を検討されている方はご一読ください。



日本語科入学願書

出願期間：2024年8月15日～9月20日

日曜、祝祭日除く

願書費用：無料

一れつ会扶育願書

出願期間：2024年8月15日～9月20日

願書費用：無料（日本語科志願者のみ）

### アメリカ一れつ会新規扶育生募集

2024年のアメリカ一れつ会新規扶育生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6月30日（日）です。新規扶育生は8月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4年目の扶育生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8月31日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

### 祭典役割

昨年までは、コロナ禍の事情により、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第2日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第2日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっていました。

そこで、本年（2024年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるようにしています。就きましては、祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、7月月次祭参拝有無に関しては、今月末（6月30日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

### 第二回 ようぼく一斉活動日

去る5月30日、伝道庁を会場に、ポイルハイツ、モントレパーク、オレンヂの三地区が合同で活動を実施し、記念祭に向けて庁内の清掃を行いました。



## 各会連絡

### ふしん委員会

- ・バイオトープガーデン、駐車場の除草作業。
- ・駐車場の木の剪定。
- ・天理会館2階、ゲストルーム、バスルームをバカロフ・ロバートさんが塗装して下さいました。
- ・浜田准一先生が、野外テーブルを新しく作り、設置をして下さいました。

### 教化育成委員会

- ・今年おやさと練成会を受講するハワイの対象者と共に、オンラインでオリエンテーションを行いました。アメリカ・カナダからは11名が参加します。参加者の内9名は事前の期間は本島話所に宿泊します。(各直属会長から承認を得て)本島話所に滞在中は、カウンセラーの弓削ジャレット、三浦アシュリー(ハワイ)、岡崎宏子会長が世話取りをして下さいます。
- ・TSA 春季練成会が無事に開催され、12名が参加しました。

### 広報委員会

- ・伝道庁90周年に、また教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々への活動情報・写真等の提供をお願い致します。  
情報提供先  
川上 kamishuyo@hotmail.com)  
林 (takhayashi@gmail.com)】
- ・「Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、Podcast等が視聴出来るようになっていきます。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただけますようお願いいたします。
- ・伝道庁90周年記念祭に関する情報もアップデートされております。
- ・「Members」用のパスワードは、「joyouslife」です。



Stories Inspired by Oyasama



SoulFire

- ・What's new at Tenrikyo.com を皆様にメールしております。

### 婦人会

- ・「How to Lead a Faith-Based Life」-「教えをもとに」の英語改訂版が発行されました。ご希望の方は1冊1ドルでお分け致します。地区責任者、または文書部までお申し込み下さい。
- ・地区総会
  - サンフランシスコ地区  
9月28日(土) サンマテオ教会
  - ロスアンゼルス地区  
9月29日(日) 伝道庁
  - シカゴ地区  
9月29日(日) ミッドウエスト教会
  - ニューヨーク地区  
10月5日(土) NYセンター
  - カナダ西部地区  
11月3日(日) ジョイアス布教所

### 少年会

- ・ファンドレイジングのご協力、ありがとうございました。\$1,565.50が少年会に寄付されました。新しいこどもおぢばがえりのTシャツや、今後の行事等に大切に使用させていただきます。
- ・KIDS FUNFEST  
90周年記念祭の週末、少年会員を対象とした、しこみ・お楽しみ行事を行いますので、申込用紙にご記入ください  
<https://forms.gle/vyYD882Rcq71M1ud9>
- ・少年会おつとめまなび総会  
8月17日(土) 於: 伝道庁  
おつとめに当たっている少年会員は、各家庭、教会等で練習をお願いします。一人でも多くのご参加をお待ちしています。
- ・こどもおぢばがえり  
ジェネラルグループ: 7月24日~30日  
海外少年ひのきしん隊 7月25日~30日  
今年からハワイ団との合同隊となります。申込が未だの方はお早めをお願いします。



### 青年会

- ・6/16 ひのきしん: 壁の高圧洗浄、駐車場の草抜き
- ・6/29 午後2時: アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立70周年記念合同総会
- ・7/18~24 インターナショナルひのきしん隊の申込をアメリカ青年会の会員に配布しました。問い合わせは (kkryono@gmail.com) までお願いします。

### NYセンター

- ・5/26 青年会主催ファミリーBBQ 約120名参加
- ・6/2 よふぼく一斉活動日 NY地区 49名参加



# 90th Anniversary

**SHARING OUR JOY OF FAITH**  
Tenrikyo Mission Headquarters  
in America

*Saturday*  
**JUNE  
29**

**1:30 - 3:30 PM**

70th Anniversary Joint  
Convention  
Young Men's and Women's  
Associations  
Attended by Mrs. Harue  
Nakayama and Mr. Daisuke  
Nakayama

**3:30 - 9:00 PM**

Commemorative program  
and Dinner Reception

*Sunday*  
**JUNE  
30**

**10:00 AM**

Tenrikyo Mission Headquarters  
in America  
90th Anniversary  
Commemorative Service

**1:30 - 3:00 PM**

Reception and  
Entertainment



For Further Information, visit our website at [tenrikyo.com](http://tenrikyo.com)  
Tenrikyo Mission Headquarters • 2727 East 1st St • Los Angeles, CA • 90033

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA  
2727 EAST FIRST STREET  
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

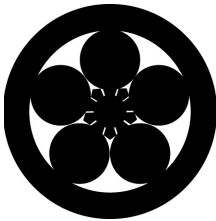
U.S.POSTAGE  
PAID

LOS ANGELES. CA  
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

---

## THE JOYOUS LIFE



**TENRIKYO** came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.  
The mind alone is yours.”  
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.